

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
自己表現とコミュニケーション分析 (Expert)		選択	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
高田 毅	B301	t.takada	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>自己表現は、青年期の発達課題の1つである。大学生活はもちろんのこと、就職活動やその後の人生を生き抜く力に直結する。本授業では、コミュニケーション分析を通して自分のコミュニケーションの特徴を理解し、率直な自己表現能力の向上を目的とする。</p> <p><概要>対面授業で展開する。応答構成法の枠組みを活用し、実際の対話場面のコミュニケーション分析を行う。自らの発話の特徴を理解し、自己分析・自己表現を豊かにする。人間コミュニケーション学科のディプロマポリシーにある「豊かな人間観」と「多様性を尊重する姿勢」を育むため、多角的な視野を培い、異なる背景や視点を尊重できる、多様な自己表現・コミュニケーションの実践を体験する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	ワーク中心の授業である。それぞれの体験を確認しながら進める。楽しむことが重要である。講義中の質問・疑問・関心・感想はその都度発言し、授業内で消化することが重要である。体験は人それぞれなので、自分の固有の体験に正直になり、学びにすることが重要である。				
教科書	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	なし				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	自分を表現するための技術を理解し、コミュニケーションに活用できる。			HSU(4)、HC(6)	
②	自己理解をし、自分の長所と課題を自覚することができる。			HSU(5)、HC(4)	
③					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションを行う。受講前のベースラインを確かめる。	講義・演習	受講の意志を明瞭にする。授業後にコメントシートを提出する。	2	
2	コミュニケーション分析のための基礎理論を復習する。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
3	事実を描く技術について復習をする。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
4	応答構成法について学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
5	応答構成法を通してコミュニケーション分析を実践する①。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
6	応答構成法を通してコミュニケーション分析を実践する②。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
7	応答構成法を通してコミュニケーション分析を実践する③。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
8	応答構成法を通してコミュニケーション分析を実践する④。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
9	応答構成法を通してコミュニケーション分析を実践する⑤。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
10	学生の提示した事例の応答構成から学ぶ①。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
11	学生の提示した事例の応答構成から学ぶ②。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
12	学生の提示した事例の応答構成から学ぶ③。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
13	学生の提示した事例の応答構成から学ぶ④。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
14	学生の提示した事例の応答構成から学ぶ⑤。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
15	まとめとフィードバックを行う。	講義・演習	全体の学びをまとめる。授業後にコメントシートを提出する。	6	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	55	0	0	45	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	5	15
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	5	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	5	15
	コミュニケーション力	0	10	0	0	5	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	0	15	0	0	10	25
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	本授業の前後を比較して得た自己の成長をレポートにまとめる。知識を用いて思考、表現ができていのかどうか、学生固有の体験から学ぶことができているかを評価する。また、具体的に丁寧に書かれているかどうかを評価する。				レポートを返却し、解説とフィードバックを行う。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回の授業後にコメントシートを記入する。具体的に丁寧に書かれているか、自分の体験と繋いで理解できているかを評価する。 (2点×15回=30点)				コメントシートに教員がコメントを加えて返却する。必要に応じて次回の授業で補足する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	臨床心理士として18年、公認心理師として7年の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	ミニワークを中心とした体験学習を中心に展開する。心理療法やグループセラピーの技術を応用して、各自の体験からのスキルの取得や自己理解を促す。						
そ の 他	生成 AI (ChatGPT 等) を使用した課題作成は認めない。発見した場合は、評価を減じる。 「自己表現とコミュニケーション (Basic)」を単位取得済みであることが望ましい。 授業に参加し、自ら学ぶことが求められる。その点を理解の上受講すること。 教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。						